

伊東市新図書館基本計画

令和4年1月

伊東市教育委員会

目次

1	これまでの経過及び現図書館の状況	1
1-1	新図書館の整備の検討経緯及び基本計画の位置付け	1
1-2	基本構想における新図書館の在り方	2
1-3	伊東図書館及び生涯学習センター中央会館の現状	4
2	新図書館の参考となる先進事例	6
3	新図書館のサービス及び施設整備の基本的な考え方	8
3-1	新図書館の目指す姿	8
3-2	サービスの基本的な考え方	8
3-3	施設整備の基本的な考え方	9
4	サービス計画	11
4-1	新図書館のサービス	11
4-2	市全域のサービス	15
5	施設整備計画	16
5-1	フロアコンセプト	16
5-2	諸室の考え方	17
5-3	蔵書規模目標	19
5-4	I C T計画	19
5-5	施設規模目標	22
5-6	ゾーニング及び配架方針	23
6	管理運営計画	28
6-1	開館時間・休館日	28
6-2	管理運営体制	28
7	事業計画	29
7-1	開館までの事業スケジュール	29
7-2	事業費概算	31

1 これまでの経過及び現図書館の状況

1-1 新図書館の整備の検討経緯及び基本計画の位置付け

伊東市では、図書館サービスの中核を担ってきた伊東図書館が築 40 年を超え、現在の敷地及び建物では開架・学習スペースや駐車場の不足、バリアフリー等の課題への対応が困難であることから、より高度な図書館サービスやICTの活用を通じた新たなサービスを提供する新図書館の建設に向けた検討を進めてきました。

さらに、多様化・高度化する利用者ニーズに対応するとともに、コミュニティ醸成の場を提供する必要があることから、図書館機能と生涯学習センター機能、文化ホール機能の複合も視野に入れ、平成 30 年 3 月に「図書館・文化ホール建設に向けた整備の方向性」を策定しました。これを受け、平成 30 年 10 月から令和 2 年 12 月まで開催された「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」では、平成 30 年度地域タウンミーティングや未来ビジョン会議における市民意見も踏まえて建設候補地・建設形態を検討し、現在も併設されている伊東図書館及び生涯学習センター中央会館の移転先として、マンダリンホテル跡地を候補地に選定しました。

令和 3 年 3 月には、これまでの検討経緯・結果に加え、上位・関連計画や市民ワークショップ等を通じて把握した市民意見も踏まえ、市民が「未来を拓く」ことのできる図書館の実現に向けて新図書館のコンセプトや市全体の図書館サービスの在り方等について検討した「伊東市新図書館基本構想」（以下、「基本構想」という。）を策定しました。

「伊東市新図書館基本計画」（以下、「本計画」という。）では、基本構想の内容を踏まえつつ、蔵書やサービス、施設整備、管理運営等の詳細を更に具体的に検証することにより、サービスと施設が合致した新図書館の整備を目指します。

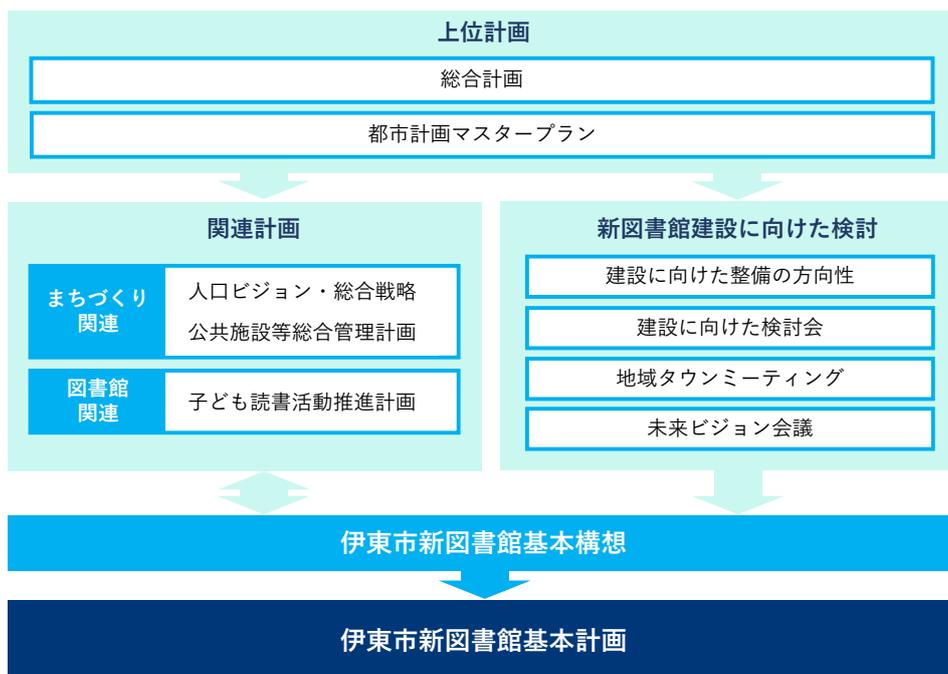


図 1-1 基本計画の位置付け

1-2 基本構想における新図書館の在り方

1-2-1 拡充機能・コンセプト等

基本構想では、これまでの検討結果や現図書館の課題、ワークショップで把握した市民意見等を踏まえ、新図書館で拡充が必要な機能・サービス案を以下のとおり7つに分類しました。

新図書館の拡充機能・サービス（案）

① 交流機能

立ち寄りやすい雰囲気でも世代の交流を促し、本や活動との偶然の出会いを誘発

② 一般コーナー機能

図書館本来の市民の知と情報を集積し、くつろいで読書できる環境を提供

③ 伊東市情報センター機能

伊東市の歴史や文化を知ることができる情報や資料を発信・提供

④ 児童コーナー機能

子どもや親子連れが利用しやすく、楽しみながら読書できる環境を提供

⑤ ティーンズコーナー機能

中高生のニーズに沿った幅広い資料や学習環境を提供

⑥ 生涯学習センター機能

従来の機能に加えて市民のクリエイティブな活動を可能とする環境を提供

⑦ ICT機能

利便性向上・運営コスト削減・感染症対策等に向けてセルフ化・デジタル化を推進

さらに、市内全域に充実した図書館サービスを提供するため、新図書館を拠点とした新たな図書館サービス網の構築に向け、必要なサービス案を以下のとおり整理しました。

市全体の新たな図書館サービス網に必要なサービス（案）

① 市内各施設でのサテライトサービス

返却ポスト・サービスコーナーの設置、市南部地域へのサテライト図書館設置

② アウトリーチサービス

移動図書館拡充、宅配サービスの提供、出張読み聞かせ等の開催

③ 地域連携サービス

民間図書館・商店との連携、屋外型イベントの開催

④ 新図書館へのアクセス強化

十分な駐車場の確保、新図書館へのシャトルバスの運行

⑤ ICT活用による遠隔地へのサービス

電子図書館の導入、地域資料のデジタル化、SNS等での情報発信

その上で、伊東市の未来を担う子どもや今を担う大人ひとりひとりが活躍し、交わりながら、自身の夢と未来を育むことができる創造拠点の構築を目指して、新図書館のコンセプトを

『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～

と設定しました。新図書館では、市内外から気軽に訪れ、学ぶ喜びや豊かさを享受できる場として機能するとともに、「国際観光温泉文化都市」伊東市の知・文化・歴史を収集記録し、内外に発信し続けることで、シビックプライドの醸成及び文化や知の発展への寄与を目指します。そして、「この図書館があるから伊東市に行ってみたい、住んでみたい、住んでいたい」と思われる図書館となることを目標とします。

1-2-2 蔵書・施設

基本構想では「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を基に、令和7年度の伊東市の人口規模にふさわしい蔵書規模を推計し、新図書館の蔵書目標を33.3万冊程度と設定しました。また、同規模自治体の平均を踏まえて児童書の目標を蔵書の25%（83,250冊）程度、閉架の目安を蔵書の50%程度としました。

施設規模の検討に当たっては、蔵書目標及び7つの拡充機能を踏まえ、図書館機能、生涯学習センター機能、市民意見等で求められた新たな機能を組み合わせる中で、必要とされるスペースをどの程度多目的に利用するか段階別で3パターンの面積案を試算しました。①新たな機能を全て入れた案では、必要とされるスペースを全て独立させた場合を想定して7,500㎡程度が必要と算出し、②図書館・生涯学習センター機能と新たな機能を融合した案では、一部の機能的に類似するスペースを整理して6,000㎡程度が必要と算出しました。また、③各スペースを多目的に活用した案では、各機能を最大限融合する中で、スペースを多目的に活用することを想定し、5,000㎡程度が必要と算出しました。

さらに、建設予定地の敷地面積と必要な施設規模から、基本構想では新図書館を4～5層程度と仮定して機能配置案も検討しました。建設予定地が津波浸水想定区域及び洪水浸水想定区域であることから、1階への貴重資料等の設置は避け、低層階から上層階に向かうにつれて動的な活動から静的な活動へと切れ目なくつながるよう、各スペースの関係性を重視した配置案としました。

基本構想の策定後も詳細の検討を進めた結果、建設工事費用や維持管理費用、機能の融合性、座席数等の観点から、3パターンの面積案のうち、③各スペースを多目的に活用した案が最もふさわしいことから、本計画では、新図書館の面積の目安を5,000㎡とし、基本構想で設定した機能・サービス案や機能配置案等をより詳細に精査・検証することで、設計に向けた具体的な検討を進めることとします。

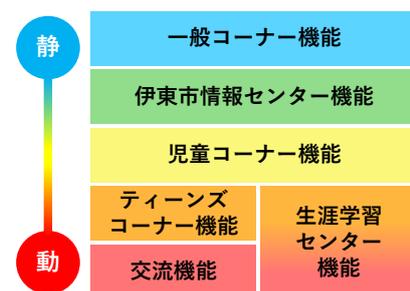


図 1-2 機能配置案（基本構想）

1-3 伊東図書館及び生涯学習センター中央会館の現状

1-3-1 施設概要

現施設は昭和 55 年 11 月に新築され、伊東図書館及び生涯学習センター中央会館との複合施設として、40 年以上にわたって市民の読書や生涯学習等に資するサービスを提供してきました。地上 4 階建ての施設のうち、1・2 階が図書館、3・4 階が生涯学習センターとなっており、1・2 階に設置されたエントランスから両施設にアクセスできます。両施設の入口は近接しているものの、自然光が届きにくいいため暗く、さらに、各施設で動線が完全に分かれる構造となっています。このため、それぞれの施設の利用者が分断されてしまい、回遊性による新たな利用が生まれにくい環境です。

表 1-1 伊東図書館・生涯学習センター中央会館施設概要

開館：昭和 55 年 11 月 1 日
所在地：伊東市音無町 5 番 14 号
構造：鉄筋コンクリート造 4 階建て
面積：2,713 ㎡(うち図書館専有：954 ㎡、生涯学習センター専有：1,520 ㎡)
施設：1 階 (図書館) …閉架書庫、移動図書館専用車庫・書庫
2 階 (図書館) …開架書架、閲覧スペース (閲覧席：108 席)
3 階 (生涯学習センター) …和室 (2 室)、視聴覚室、展示兼トレーニング室
4 階 (生涯学習センター) …会議室 (2 室)、研修室 (2 室)、美術工芸室



図 1-3 外観

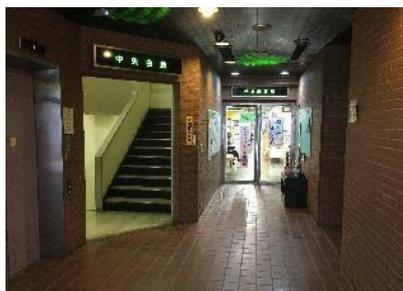


図 1-4 図書館・生涯学習センター入口

1-3-2 伊東図書館の現状

伊東市の令和 3 年 4 月 1 日時点の蔵書数は 203,261 点で、うち伊東図書館では図書 181,002 冊、視聴覚資料 3,501 点、雑誌 83 誌 (12,590 冊)、新聞 8 紙を所蔵しています。1・2 階に位置する伊東図書館諸室のうち、開架書架や閲覧スペース等の利用者ゾーンは 2 階に設置されています。

伊東図書館では郷土ゆかりの人物や全国有数の温泉地であることにちなんだ資料、子ども向けの民話等を積極的に収集し、地域に根差したサービスに取り組んでいますが、魅力的な郷土資料約 2,500 冊を収集・配架している郷土資料室は奥まった場所にあり、利用しにくい状況です。また、限られたスペースで多くの資料を配架するため、全体的に背の高い書架が多く、書架の間隔が極めて狭い箇所もあるなど、バリアフリーへの対応も十分ではありません。

現在は閲覧席を 108 席設置していますが、くつろいだり自由に過ごしたりできる閲覧環境や学習スペースの拡充等、市民ワークショップでもニーズが高かった新たなスペースへの対応は難しい状況です。

1-3-3 生涯学習センター中央会館の現状

生涯学習センター中央会館では、市民大学講座を始めとした様々な生涯学習講座を開催するほか、諸室を午前（9～12時）、午後（13～17時）、夜間（18～22時）の3区分で貸し出しており、どの時間帯も活発な利用が見られます。会議形式での利用は少なく、ダンスを始めとした運動や合唱等の音楽活動、絵画・工芸等の制作活動、茶道や生け花、俳句・短歌等の伝統文化に関する活動等での利用が中心です。

平成30年度及び令和元年度の諸室の利用状況を整理すると、会議室や研修室を始め、多目的に使用可能な諸室の使用率が高い傾向が見られます。特に、中央会館で最も広い第1会議室は使用率も最も高く、両年度で70%近くに及んでいます。

諸室の特徴ごとに利用傾向を整理すると、比較的広い第1会議室、視聴覚室、展示兼トレーニング室は運動や音楽活動等での利用が多く、使用率も高い傾向にあります。また、比較的小規模な部屋は美術・工芸や伝統文化活動での利用が多く、特に、和室以外で最も小さい第2研修室の使用率が高くなっています。一方、和室や美術工芸室等の用途が限られる部屋は使用率が低い傾向にあり、中でも和室は2室とも使用率が20%を下回る状態です。

表 1-2 生涯学習センター中央会館の諸室概要

室名	面積 (㎡)	収容人数 (人)	使用料金※(円)			備考
			9～12時	13～17時	18～22時	
第1会議室	141	100	1,300	1,500	2,000	
第2会議室	52	30	800	1,000	1,300	
第1研修室	53	30	800	1,000	1,300	
第2研修室	35	20	500	800	1,000	
第1和室	57		800	1,000	1,300	8畳+6畳、水屋・踏込・物置あり
第2和室	33		500	800	1,000	10畳、水屋あり
美術工芸室	113	30	1,300	1,500	2,000	うち倉庫等：36㎡
視聴覚室	115	50	1,300	1,500	2,000	うち倉庫等：23㎡
展示兼トレーニング室	98	40	1,000	1,300	1,500	うち倉庫等：28㎡

※市外団体が使用する場合は倍額

表 1-3 生涯学習センター中央会館の諸室利用状況

室名	面積 (㎡)	平成30年度			令和元年度			主な用途	
		使用回数 (回)	使用率	使用人数(人)	使用回数 (回)	使用率	使用人数(人)		
				1回当たり			1回当たり		
第1会議室	141	619	67.4%	8,073	608	66.2%	7,619	12.5	ダンス、太極拳、ヨガ、講座等
第2会議室	52	272	29.6%	1,948	264	28.8%	1,555	5.9	会議、絵画(水彩画)等
第1研修室	53	377	41.1%	3,109	345	37.6%	3,120	9.0	会議、工芸等
第2研修室	35	456	49.7%	3,508	422	46.0%	2,317	5.5	工芸、俳句・短歌等
第1和室	57	114	12.4%	716	104	11.3%	228	2.2	茶道等
第2和室	33	149	16.2%	518	126	13.7%	311	2.5	俳句・短歌等
美術工芸室	113	222	24.2%	1,812	222	24.2%	1,725	7.8	絵画(水彩画・油絵)、生け花等
視聴覚室	115	484	52.7%	7,402	463	50.4%	6,796	14.7	音楽活動(合唱)、会議等
展示兼トレーニング室	98	337	36.7%	3,050	444	48.4%	2,685	6.0	ダンス等
合計	697	3,030	36.7%	30,136	2,998	36.3%	26,356	8.8	

2 新図書館の参考となる先進事例

新図書館のサービス及び施設整備を検討するに当たり、先進的な事例を調査しました。その中でも特に、新図書館での拡充機能・サービス案にある、7つの機能につながる事例や、そのほか、配架に特徴・工夫のある事例、新型コロナウイルス等の感染症の影響を踏まえた事例を以下に示します。

表 2-1 「①交流機能」「⑦ICT機能」「感染症対策」の参考となる事例

大田区立池上図書館／東京都大田区	
<ul style="list-style-type: none"> ● セルフ予約受取・貸出・返却+感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> - 駅直結の商業施設内にあることから、図書館閉館後も施設全体の営業終了時間までサービスを提供できるよう、ICタグで管理された予約本自動受取機、自動返却機を設置 - 自動貸出機、自動返却機による貸出・返却のセルフ化が図られ、対面での接触を避けることができ、感染症対策にも寄与 ● カフェとつながる立ち寄りやすい雰囲気 <ul style="list-style-type: none"> - 同じフロアにあるカフェとの間に壁がなく、蓋付きの飲み物の図書館への持ち込み、カフェでの図書館の本の閲覧が可能で、自由に行き来可能 - 図書館側にカフェ用のごみ箱、カフェ側に本の返却棚を用意し、双方で連携することでよりシームレスな空間を創出 	

表 2-2 「③伊東市情報センター機能」の参考となる事例

大和市立図書館（大和市文化創造拠点シリウス）／神奈川県大和市	
<ul style="list-style-type: none"> ● 開かれた郷土資料コーナー <ul style="list-style-type: none"> - 5階は「調べて学ぶ図書館」というテーマの下、レファレンスカウンター、地域資料コーナー、読書室が近接 - 地域資料コーナーはつる舞の里歴史資料館の収蔵品の一部が展示され、大和市や神奈川県内市町村に関する歴史資料等を配架した開かれたコーナーとして整備 - 読書室はレファレンスカウンターに近く、静かな環境となっており研究にも便利 	 <p>© 株式会社エスエス 加藤俊彦</p>

表 2-3 「③伊東市情報センター機能」「⑦ICT機能」の参考となる事例

さいたま市大宮図書館／埼玉県さいたま市	
<ul style="list-style-type: none"> ● 電子図書館等による郷土資料の発信・提供 <ul style="list-style-type: none"> - 電子図書館に搭載されている資料のうち、地域資料は利用者登録無しでも閲覧可能 - さいたま市大宮図書館には、地域ゆかりの文学者らの資料を展示した文学資料コーナーを設置し、地域ゆかりの歌人 大西民子に関する資料はデジタル化し、電子資料として公開 - 電子図書館により、新型コロナウイルス感染症流行による臨時休館中も図書館サービスを提供 	

表 2-4 「②一般コーナー機能」「③伊東市情報センター機能」の参考となる事例

札幌市図書・情報館／北海道札幌市	
<ul style="list-style-type: none"> ● テーマ選書による知と情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> - 「はたらくをらくにする」をコンセプトとし、仕事や暮らしに関する調査相談や図書・情報の提供に特化した課題解決型図書館として運営 - WORK、ART、L I F E の3つのエリアに分かれ、日本十進分類法*によらない図書や新聞、雑誌等の配架を実施 	

※日本十進分類法 (NDC)：図書を主題ごとにグループ分けし、0～9のアラビア数字で表す図書分類法。

表 2-5 「④児童コーナー機能」「⑦ICT機能」の参考となる事例

こども本の森 中之島／大阪府大阪市	
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもも大人も絵本に楽しみながら出会える <ul style="list-style-type: none"> - 子どもたちの好奇心を誘発するよう壁一面に絵本を配架 - プロジェクションマッピングなどのICT技術により、本の魅力を最大限引き出し、子どもが楽しみながら本を手にとれるよう工夫 	 <p style="text-align: right; font-size: small;">© 伊東俊介</p>

表 2-6 「①交流機能」「⑤ティーンズコーナー機能」の参考となる事例

那須塩原市図書館みる／栃木県那須塩原市	
<ul style="list-style-type: none"> ● 本との偶然の出会い <ul style="list-style-type: none"> - テーマに沿って日本十進分類法によらずに選書した本を展示したコーナーを設け、テーマと関連した本以外のモノも展示 - 本の中の印象的な一文を書棚に掲出することで人々を書棚、本に引き付ける工夫を実施 ● ティーンズが立ち寄りたくなる場所 <ul style="list-style-type: none"> - 通称「みるる」は市内中学生が命名 - アクティブラーニングスペース、サイレントラーニングスペース、グループ学習室、学習ブースなどの利用形態に合わせた様々な諸室を設置 	

表 2-7 「⑤ティーンズコーナー機能」「⑥生涯学習センター機能」「⑦ICT機能」の参考となる事例

Oodi／フィンランド ヘルシンキ	
<ul style="list-style-type: none"> ● クリエイティブな活動を支援 <ul style="list-style-type: none"> - 3Dプリンターなど、市民の創作活動に必要なとされる機器類が置かれているメーカースペースを設置 - テレビゲーム、ボードゲームといったゲーム類も所蔵 ● セルフ貸出・返却+効率化 <ul style="list-style-type: none"> - 貸出・返却は完全セルフ化が図られており、仕分け機・フロア間運搬ロボットで返却後の配架も効率化 	

3 新図書館のサービス及び施設整備の基本的な考え方

3-1 新図書館の目指す姿

基本構想で設定したコンセプト「『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～」を実現するため、施設の中心部に、地域のあらゆる情報を集約し、新図書館において拡充が必要な7つの機能・サービスを結び付ける役割を持ち、誰もが利活用できるエリア「まちのミュージアム」を構築します。

「まちのミュージアム」では、郷土資料を中心に、市内に点在している景勝地や温泉等の自然資源、東海館や木下杢太郎記念館等の歴史文化資源、体験型ものづくり拠点等の観光資源に関する情報のほかに、市民活動の記録・成果等も「まちの情報」として幅広く収集・編集し、訪れる人々や周辺地域、さらには世界へと広く発信することで、新図書館が伊東の歴史・文化を始めとする全ての情報を知ることのできる「まちの入口」となります。

新図書館は「まちのミュージアム」を幹として利用者の創造活動を促進します。訪れた人々が「まちのミュージアム」で新たな「まちの情報」と出会うことにより、それぞれの興味に応じた活動・体験が生まれ、次の「まちの情報」の創出・発信につながるサイクルを形成します。

このように、施設からまち全体に賑わいの輪を広げ、「国際観光温泉文化都市」である伊東市の魅力向上のため地域と共に取り組み、訪れる人々の夢と未来を育むことができる創造拠点となることを目指します。

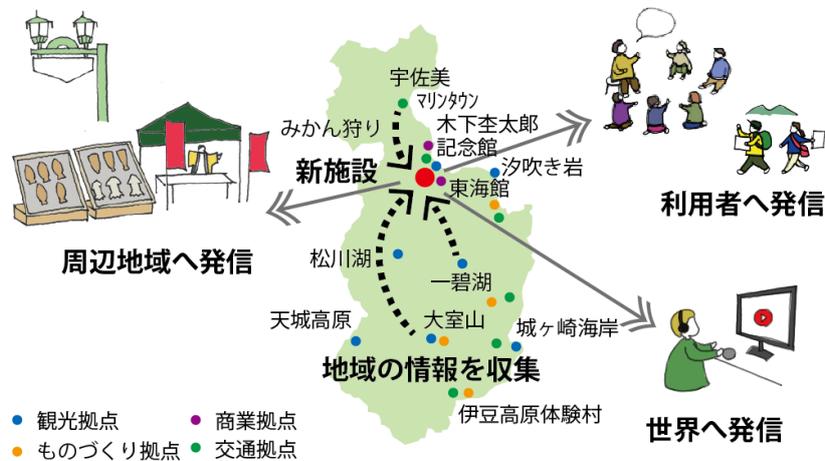


図 3-1 誰もが発信できる「まちのミュージアム」構築イメージ

3-2 サービスの基本的な考え方

「3-1 新図書館の目指す姿」を踏まえ、新図書館では「まちのミュージアム」を幹とした①地域の魅力発信、②知との偶然の出会いを誘発する選書と配架、③創造を生み出す活動と情報の一体的な提供、④ICTによる新たな体験の提供、の4つを施設全体の軸としてサービスを提供します。なお、新図書館では、伊東市の新たな図書館サービス網の拠点として、基本構想で検討したサテライトサービスやアウトリーチサービス等の将来的な拡充にも対応できる機能も併せて検討します。

3-2-1 地域の魅力発信

新図書館の柱となる「まちのミュージアム」では、郷土資料を中心とした伊東市に関する様々な情報の収集や展示を始め、市民や市を訪れる人がまちの情報に触れ、まちについて更に深く知ることができる様々なサービスを提供します。「まちのミュージアム」を通じて市民の豊かな学びや活動を促進するとともに、地域の魅力を広く発信し、シビックプライドの醸成や地域の活性化への寄与を目指します。

3-2-2 知との偶然の出会いを誘発する選書と配架

様々な読書・学習ニーズに応える幅広い資料を収集します。特に、伊東市に関連する資料として、従来収集してきた郷土資料に加えて、より多彩な資料を積極的に収集します。

また、伊東のまちと本を結び付けるよう配架を工夫し、思いがけない本との出会いや興味の連鎖による読書・学びの広がりを促進します。選書・配架に当たっては、隣接するスペースの用途も踏まえつつ、多様なジャンルの資料・コーナーを充実させ、上質で快適な読書・学習環境を提供します。

3-2-3 創造を生み出す活動と情報の一体的な提供

新図書館では従来の図書館機能と生涯学習機能を融合し、生涯学習センターで提供してきた諸室を図書館に統合することで、活動と情報を一体的に提供します。単なる本やスペースの提供にとどまらず、両機能を組み合わせた企画やイベントを展開することで、情報から活動へ、活動から情報へと広がる利用者の学びをサポートします。

3-2-4 ICTによる新たな体験の提供

ICTタグシステムを始めとしたICTの活用を通じ、利便性の向上を図るとともに、安全・安心に図書館を利用できる環境を構築します。さらに、貸出・返却や蔵書点検等のルーティーン作業・単純作業を効率化することで、司書がレファレンスサービスや新たなサービス等に注力することが可能となり、司書と利用者のコミュニケーションの活性化にも寄与します。

また、電子機器やソフト等を活用方法と併せて提供し、創造的な活動やICTへの深い理解を支援します。

3-3 施設整備の基本的な考え方

「3-1 新図書館の目指す姿」を踏まえ、伊東の豊かな自然や街並みと調和し、まちとのつながりを感じられる施設の整備を目指します。「3-2 サービスの基本的な考え方」の内容も考慮し、施設整備で重視する考え方は以下のとおりです。

3-3-1 フロアによる静と動のゾーニング

施設全体が多様な交流を促すコミュニケーションの場となるよう、ハード面からも機能融合を進めるため、新図書館の施設は諸室を壁等で区切らないオープンスペースを基本とします。

さらに、基本構想に従い、低層階から上層階に向かうにつれ、動的な活動から静的な活動へと緩やかな音のゾーニングを行うことで、周囲の活動から刺激を受けながらも、程よい距離感で自分の時間を過ごせる環境を創出します。また、賑わいの中でも周囲の音を気にすることなく作業に集中できる空間も確保するため、静寂性が必要なスペースは個室として区切ることにします。

3-3-2 「まちのミュージアム」を軸としたフロア構成

フロア内での機能連携が生まれやすくなるよう、本計画では災害時に浸水の可能性がある1階は駐車場を中心とし、メインフロアを2～4階の3層とすることで、4～5層を想定していた基本構想段階よりも各フロアの面的広がりにも余裕を持たせます。

また、施設全体でも機能融合を進め、施設の一体感を創出するため、新図書館の柱となる「まちのミュージアム」を各フロアに配置することで、施設の縦方向の連続性を持たせるとともに、「まちのミュージアム」を媒介として7つの機能を結び付けるよう計画します。

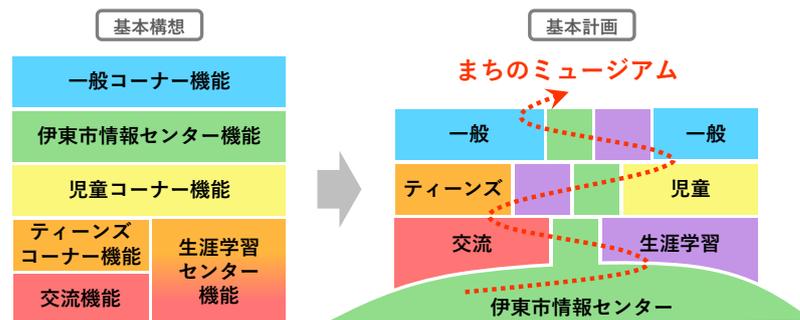


図 3-2 機能配置案

3-3-3 利用者の興味を広げる機能配置

各フロアでは、資料へのアクセス性を高めるため、フロアの中央に「まちのミュージアム」を配置し、そこから放射状につながる書架やコーナーを配置します。これにより、利用者の興味の連鎖や新たな出会いを促進します。また、各コーナーをフロアの外周に配置することで、施設外の環境ともつながりを感じられる新しい学びの場をつくります。

3-3-4 活動と情報が一体となるコーナー配置

利用者の「出会う・興味を持つ」「学ぶ・調べる」「活動する」「展示・発表する」というサイクルがスムーズに循環するよう、書架と関連する活動・発表のスペースをセットにして様々なテーマのコーナーを設置します。各コーナーにはテーマに関連する資料を配架し、関連する活動が可能なスペースや作品展示が可能なスペースを配置します。

4 サービス計画

4-1 新図書館のサービス

「3-2 サービスの基本的な考え方」で示した「まちのミュージアム」を幹とした①地域の魅力発信、②知との偶然の出会いを誘発する選書と配架、③創造を生み出す活動と情報の一体的な提供、④ICTによる新たな体験の提供、の4つの軸ごとに、新図書館の新たなサービスを以下のとおり示します。

4-1-1 地域の魅力発信

「まちのミュージアム」では、伊東市の歴史や郷土ゆかりの人物に関する資料を始め、温泉や地震、火山など、幅広い資料を郷土資料と位置付けて収集するほか、市民はもちろん市外からの利用者や観光客・旅行者にも役立つ情報や資料を収集・提供します。

また、情報の提供にとどまらず、様々な視点で捉えた「まちの情報」のアーカイブ化や市民活動の発表の場の提供、体験型イベントの開催等を通じて伊東市の魅力を多角的に発信し、新たな「まちの情報」の創出を支援します。

表 4-1 地域の魅力発信に関するサービス

項目	内容	拡充される機能	必要な諸室
郷土資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・現在所蔵している県、市、木下杢太郎、温泉等の資料に加え、様々な視点から地域の魅力を捉えた地域関連資料の更なる収集及び手取りやすい配架の工夫 ・歴史資料の展示や、郷土ゆかりの人物に関する展示 ・市在住、市出身で活躍する人の作品展示 ・児童、ティーンズ向けの伊東に関する資料の収集 ・民話、風土記の収集、展示など ・郷土資料に関するレファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> ②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能 ④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能 	郷土資料コーナー、展示スペースなど
伊東文化の創造とアーカイブ	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が参加するものづくりワークショップや、子どもたちのワークショップの実施 ・ワークショップでつくられたものなどの保存と展示 	<ul style="list-style-type: none"> ②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能 ④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能 	ものづくりが可能なファブスペース※
地域・観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の施設や企業情報を掲載したチラシやパンフレットの提供 ・サイネージによる観光・地域情報の発信 	③伊東市情報センター機能	ブラウジングスペース
地域産業の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ・マルシェなどイベントの開催 ・市名産品等の販売や、市民の作品の展示や販売 	<ul style="list-style-type: none"> ①交流機能 ③伊東市情報センター機能 	広場、ギャラリーショップなど

※ファブスペース：デジタル工作機器・アナログ工作機器等が利用可能なものづくりスペース



図 4-1 「まちのミュージアム」での活動イメージ

4-1-2 知との偶然の出会いを誘発する選書と配架

伊東図書館が所蔵する、木下杢太郎、温泉、伊東の昔話といった郷土資料に加え、観光資料、市民の活動記録、あるいは伊東市につながる資料やそこから連想される資料・情報は、「まちのミュージアム資料」と位置付けます。「まちのミュージアム資料」はNDCを基にした「まちのミュージアム分類」に分け、各フロアの中心に配架します。

通常のNDC分類資料は、フロア外周部の各コーナーに配架し、「まちのミュージアム資料」とゆるやかにつなぎます。目的を持って本を探しに来た人がいつの間にかまちに関連する本を手にとったり、目的を持たずに施設を訪れた人が伊東の新たな魅力を知ったりするきっかけをつくります。

通常のNDC分類資料と「まちのミュージアム資料」を有機的につなぎ配架を通じて、資料を見ていくうちに利用者の興味を広げ、様々な知との出会いを創出します。

また、課題解決に役立つ資料やビジネス関連資料など、各世代のニーズに沿った多様な資料の収集や、時勢に即した特集展示を行います。可動書架を活用したイベント時の関連本配架、普段本を読まない人も手に取りやすい書籍の目にとまりやすい場所への配架など、様々な人を対象に興味や好奇心を促す工夫も行います。

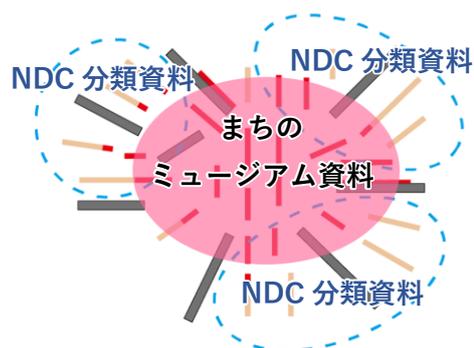


図 4-2 「まちのミュージアム資料」を中心とした各フロアの配架イメージ

表 4-2 選書と配架に関するサービス

項目	内容	拡充される機能	必要な諸室
「まちのミュージアム資料」とNDC分類資料の配架	<ul style="list-style-type: none"> 「まちのミュージアム資料」の収集及び中心エリアの配架 NDC分類資料と「まちのミュージアム資料」をつなげる配架 	<ul style="list-style-type: none"> ②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能 	—
多様な資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決となる資料の収集 親子向けに子育てや教育を扱った一般書の収集 読み聞かせ用の絵本や大型絵本、バリアフリー資料の収集 参考資料、学習に役立つ資料の収集 多様なティーンズ向け資料の収集 など 	<ul style="list-style-type: none"> ②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能 	—
場に応じた資料の展示	<ul style="list-style-type: none"> 季節のイベントや時勢に沿った図書の特集展示 講座、イベント時の関連本の展示・配架 手に取りやすい本の展示・配架 	<ul style="list-style-type: none"> ①交流機能 ②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能 	可動書架スペース

4-1-3 創造を生み出す活動と情報の一体的な提供

施設内には、創作、学習、運動、イベントなど、市民や団体の利用目的に沿った様々な活動ができる場をつくります。その活動の場のそばに作品等を展示したり関連書籍を配架したりすることで、施設を訪れる人の興味を惹きつけ、興味を持った人はすぐ本を手に取り情報を得ることができます。また、ワークショップが開催される諸室の付近の書架にはその内容に関連した資料を配架するなど、情報から得る気づきによって、活動が更に活性化される工夫を行います。

その他、児童フロアでは読み聞かせ用の絵本や子育て支援となる資料を配架し、コワーキングスペース※のそばにはビジネス関連資料を配架するなど、様々な目的で施設を利用する人の活動と情報もつなぎます。

※コワーキングスペース：PC等を使って仕事ができる共有・オープン型のオフィススペース

表 4-3 活動と情報の一体的な提供に関するサービス

項目	内容	拡充される機能	必要な諸室
多世代の活動と情報	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・団体の利用目的に沿い、活動が可能な諸室の設置 ・大人数が参加し、世代を超えて楽しめるイベントが実施できるホールや広場の設置 ・多世代を対象とした参加型ワークショップ等の実施 ・講座やイベント、ワークショップ等の内容や諸室の活動の内容に関連した資料の配架 ・視聴覚資料と視聴スペースの設置 ・気軽に入れるカフェやエントランスの整備及び各スペース付近で手に取りやすい資料の配架 	<ul style="list-style-type: none"> ①交流機能 ②一般コーナー機能 ④児童コーナー機能 ⑤ティーンズコーナー機能 ⑥生涯学習センター機能 	多目的室、会議室、ホール、ワークショップが可能なスペースなど
児童と親子の活動の情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートの実施（乳幼児対象） ・読み聞かせ、おはなし会、ブックトークなどの実施 ・児童向けの絵本展示 ・イベント実施時の一時保育 ・子育て支援資料の提供 ・子どもがのびのびと過ごせる公園のような空間づくり 	④児童コーナー機能	おはなし室、一時的に保育が可能なスペース、キッズスペース、広場など
中高生の活動と情報	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が可能な学習スペースや、個人で静かに読書や学習ができる環境の整備 ・中高生のニーズを踏まえた企画展示 ・中高生がのびのびと過ごせる空間づくり 	⑤ティーンズコーナー機能	学習室、読書室、広場など
一般の活動と情報	<ul style="list-style-type: none"> ・コワーキングスペースと、ビジネス関連資料の一体的な提供 ・レファレンスサービスの実施 	②一般コーナー機能	コワーキングスペース

4-1-4 ICTによる新たな体験の提供

ICTタグシステムの導入により貸出・返却や予約本受取のセルフ化を図ることで、非接触型サービスを推進していきます。これにより、カウンターでの受け身的な業務に代わり、書架案内等のクイックレファレンスやその他のフロアワーク等を充実させ、利用者のニーズに素早く対応することが可能となります。さらに、施設を訪れなくても情報が得られるよう、電子図書館を活用した非来館型サービスも提供します。

文化財管理センターに保管されている地域の貴重な歴史資料については、高精細なデジタル撮影を行うなど、計画的なアーカイブ化を検討します。歴史資料のデジタルアーカイブ化は、資料を用いた講座の開催やGIGAスクールでの活用も期待され、保存という側面だけでなく、オンラインで公開することにより、地域の歴史を後世に語り継ぎ世界へ発信することにも貢献します。

また、ワークショップ等が実施できるスペースには、利用者自身が自由にクリエイティブ活動を行えるよう、デジタル工作機器の設置を検討してまいります。

Wi-Fiなどのインターネット利用環境を整えるのはもちろんのこと、座席をスムーズに使用できる座席管理システムの導入、視覚的に情報が得やすいデジタルサイネージを設置するなど、最新の技術をうまく活用しながら、誰もが使いやすい施設環境をつくります。

表 4-4 ICTに関するサービス

項目	内容	拡充される機能	必要な諸室
ICTタグシステム	・ICTタグシステム導入による貸出・返却・予約本受取のセルフ化及びフロアワーク等の充実 ・回遊性を保つICTタグシステム関連機器の設置	⑦ICT機能	—
電子図書館	・非来館型、非接触型のサービスの提供	⑦ICT機能	—
地域資料のデジタルアーカイブ	・文化財管理センターと連携した、市の文化財及び歴史資料のデジタルアーカイブ化 ・デジタルアーカイブ資料の展示、公開	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能	—
デジタル工作機器	・ファブスペース内へのデジタル工作機器や、デジタルコンテンツの制作等が可能なPC等の設置	⑥生涯学習センター機能 ⑦ICT機能	ファブスペース
デジタルサイネージ	・観光・地域情報を提供するデジタルサイネージなどの情報発信機器の設置	③伊東市情報センター機能 ⑦ICT機能	—
座席管理システム	・管理が必要と思われる閲覧席、学習室の座席管理システムの導入	⑦ICT機能	—
インターネット利用環境等整備	・館内でのWi-Fi利用環境の整備 ・PCやタブレット端末等の情報収集手段の提供 ・オンラインデータベースの提供	⑦ICT機能	インターネット利用コーナー

4-1-5 その他のサービス

現在の図書館で実施している障がい者サービスに加え、市に住む外国人や市を訪れる観光客・旅行者を対象とした資料も収集するなどの多文化サービスも取り入れるほか、ユニバーサルデザインの考え方をソフト面にも取り入れてサービスを提供し、誰もが使いやすい図書館を目指します。

表 4-5 その他のサービス

項目	内容	拡充される機能	必要な諸室
障がい者サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・録音図書、点字図書、バリアフリー図書の充実 ・音声読み上げ機能等、読書バリアフリーに対応した電子図書館の導入 ・大活字本、点字付き絵本の収集 ・音声拡大読書器「よむべえ」の設置 ・朗読サービスの提供 	—	対面朗読室
多文化サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東市に住む外国人のための、多言語資料の収集 ・生活情報や語学に役立つ、分かりやすい日本語資料の提供 ・世界各国の絵本の収集 	—	—

4-2 市全域のサービス

基本構想で検討した市全域のサービスは、実施に向けて十分な検討を続け、新図書館開館時、あるいは開館後の将来的なサービス拡充に備えて計画します。また、アウトリーチ等の地域に広くサービスを届ける検討を行う一方で、市全体での効率的な運用についても検討を行い、大原児童図書館の新図書館への機能統合なども検討していきます。

また、新図書館の閉架書庫に、現在市役所に保管されている公文書の一部を移管し、歴史的公文書のアーカイブ機能も備えることも検討します。

表 4-6 市全域のサービス

項目	内容	拡充される機能	必要な諸室
サテライト	・遠隔地域での予約本受取、返却ポスト等設置の検討	—	—
アウトリーチ	・移動図書館車などを利用したイベントや、資料配送などの検討	—	—
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館及び県内図書館との資料提供等の連携や、読書活動推進のための連携 ・市内他施設、市内教育・保育機関や市他部署との連携 ・市内で開催する各種イベント等と連携した取組みの推進 	—	—
アクセス強化	・平面で入りやすく、十分な台数の駐車場の確保	—	—
情報発信	・図書館だよりや広報いとう、ホームページ、SNSなど様々な媒体を通じた情報発信	—	—
学校連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校、高等学校、幼稚園、保育園など教育・子育て機関への団体貸出 ・調べ学習の支援 ・施設見学や職場体験などの受入れ ・出張講座などの実施 	—	—
大原児童図書館	・施設老朽化のため閉館を検討	—	—
歴史的公文書の保存	・現在市役所に保管されている公文書の閉架書庫への移管	③伊東市情報センター機能	—

5 施設整備計画

5-1 フロアコンセプト

「4 サービス計画」を踏まえ、「3-3-2「まちのミュージアム」を軸としたフロア構成」で想定した4層それぞれのフロアコンセプトを以下のとおり設定します。

1階は、資料の浸水被害を防ぐために大部分を駐車場とし、大通りに面する場所は誰もが入りやすいカフェやショップなどを設置します。

また、2階以上のメインフロアへ外部からスムーズにアクセスできるよう、1階の駐車場を立体的に覆う通路を整備します。駐車場を覆う際は景観に配慮して丘のような形状とし、丘の上には子どもが遊べる広場も整備します。

2階は、諸室の中でも特にアクティブな機能を配置し、丘からの連続性を活かしたエントランスにより、様々な人が気軽に訪れて施設の活動に触れることができるよう整備します。

3階は、2階の賑やかな雰囲気を含み、子どもや親子がのびのびと過ごせる空間とします。また、児童と一般の両方とのつながりを感じつつもある程度独立した空間として、児童図書エリアから少し離れた場所に中高生がグループや個人で学習できる空間を整備します。

4階は、落ち着いて利用できるフロアとして、一般資料と郷土資料をメインに配架します。なお、前述のとおり、施設全体を縫うように「まちのミュージアム」を配置し、フロア毎に各機能の融合を図ります。

4F

知と文化を集積し活用するフロア

一般資料と郷土資料をメインとし、講座等が開催できるスペースも兼ね備えた、様々な知が集積し好奇心を促す場

諸室例) 一般資料、郷土資料、活動室、会議室、コワーキングスペースなど

3F

成長と好奇心のフロア

子どもを中心とした親子が過ごしやすい場、中高生の活動と学びを支援する場

諸室例) 児童書、絵本、おはなし室、一時的な託児スペース、ティーンズ資料、学習室など

2F

丘とつながる創造のフロア

公園や広場とつながるエントランス及びアクティブな活動と書籍が融合する創造の場

諸室例) 活動室、ホール、ファブスペース、可動書架など

1F

施設の顔となる憩いのフロア

観光を含む「まちの情報」を発信し、カフェ・ショップなどの誰もが親しめる憩いの場

諸室例) カフェ、ギャラリーショップなど

5-2 諸室の考え方

新図書館では、従来の図書館機能に加え、生涯学習機能や市民ニーズに応える新たな機能に供する諸室も必要となることから、それぞれの機能に必要な諸室・スペースの用途や役割を以下のとおり整理します。また、用途の類似する諸室の統合や多目的化を通じて機能融合を進め、施設としての一体感の創出やわかりやすいサービス提供を目指します。

5-2-1 従来の図書館機能

従来の図書館機能に必要な諸室やスペースは基本構想での検討内容を基に、「4 サービス計画」の内容も踏まえて整理します。開架スペースにはゆとりを持たせ、低い書架を採用することで空間の見通しの良さを保ちます。また、各スペースにはそれぞれの空間に適した家具を配置し、施設のどこにいても過ごしやすい空間をつくります。また、託児スペースはイベント時の一時的な利用を見据えていることから、キッズスペースとの統合によるスペースの有効活用を検討します。インターネット利用についても、専用のコーナーを設けず、タブレット端末を提供することで、館内のどこでもインターネットやオンラインデータベースが利用できる環境を目指します。

表 5-1 従来の図書館機能に必要な諸室・スペース

諸室・スペース名	主な用途	備考
一般開架・閲覧スペース	一般資料の配架、閲覧	・低書架の設置
ティーンズ開架・閲覧スペース	ティーンズ向け資料の配架、閲覧	・部分的な可動書架の設置
郷土資料開架・閲覧スペース	郷土資料の配架、閲覧	・資料や作品の展示スペースなど
学習室	個人学習	・静かに学習や読書が可能
グループ学習室	グループによる学習や研究など	・会話をしながら学習が可能
新聞・雑誌コーナー	新聞・雑誌の配架	・新聞、雑誌専用書架
ブラウジングスペース	新聞や雑誌、観光情報等の閲覧	・くつろげる家具の設置
視聴覚資料コーナー	視聴覚資料の配架、視聴	・その場で視聴が可能な仕様 ・タブレット等の設置
インターネット利用コーナー	インターネット・オンラインデータベースの利用	・館内のどこでも利用可能なタブレット端末の提供による代用
対面朗読室	読書にハンディキャップがある方とその関係者、支援者	・仕切られた部屋
予約本コーナー	予約本の受取	・BDS ゲートや自動貸出機の設置
展示コーナー	作品等の展示	・壁掛けなどの作品展示が可能な仕様
児童開架・閲覧スペース	絵本の配架、閲覧	・低書架の設置 ・資料や作品展示スペースなど
おはなし室	おはなし会の開催、読み聞かせ	・イベントがない場合は児童閲覧エリアとしても活用が可能
託児スペース	イベント時の一時的な託児	※キッズスペースとの統合を検討中
キッズスペース	子どもが遊びながら過ごせる場所	・玩具の設置等
事務室・会議室	管理運営	—
閉架書庫・作業スペース	資料保管、歴史的公文書保管	・電動書架 ・書籍と歴史的公文書保管の双方が保管可能な仕様
移動図書館書庫・駐車スペース	ともだち号の管理運営	・ともだち号と搬入用の2台分

5-2-2 生涯学習機能

新図書館の生涯学習機能を有する諸室は、現在の伊東市生涯学習センター中央会館の諸室構成を基に、使用率や主な用途を踏まえてスペースを最大限有効活用できるよう工夫します。

運動や音楽活動での利用が活発なことから、新図書館では防音又は吸音機能を備えた「活動の部屋」2室に加え、防音機能を備えた「小ホール」を設置し、多目的な利用が可能な設えとすることで、従来の活動はもちろん、新たに生まれる活動にも対応します。また、静的な活動に対応する会議室を3室設置し、うち2室を連結して1室としても使用可能な設えとすることで、小規模なグループでの気軽な利用や中規模の会議等に柔軟に対応します。

使用率の低い和室は1室に統合し、従来よりも自由度の高い利用が可能な設えとすることで、様々な用途での利用促進を検討します。同じく使用率の低い美術工芸室の後継として「ファブスペース」を設置し、デジタルコンテンツの制作が可能なパソコンや電子工作機器等も併せて提供することで、多様なクリエイティブ活動を支援します。

また、ギャラリーを設置し、様々な活動内容や成果を発表・発信する場を提供します。

表 5-2 生涯学習機能に必要な諸室

現在の伊東市生涯学習センター中央会館			新図書館の生涯学習機能を有する諸室		
諸室名	面積	主な用途	諸室名	想定される用途	仕様等
視聴覚室	115 m ² (倉庫等：23 m ²)	会議、音楽活動	小ホール	音楽活動、ダンス、太極拳、ヨガ、講演	・140席程度 ・防音
第1会議室	141 m ²	ダンス、太極拳、ヨガ、講座	活動の部屋1	講座・講演、絵画、生け花、会議	・最大100人程度収容 ・防音又は吸音
美術工芸室	113 m ² (倉庫等：36 m ²)	絵画、生け花			
第2会議室	52 m ²	会議、絵画	少人数でのグループ活動促進に向け、第2研修室と合わせて小規模な会議室を2室設置		
第1研修室	53 m ²	会議、工芸	会議室1	会議、絵画	・30人程度の会議を想定
第2研修室	35 m ²	工芸、俳句・短歌	会議室2・3	会議、俳句・短歌	・10人程度の会議を想定 ・連結して1室としての使用にも対応
第1和室	57 m ² (8+6畳)	茶道	和室	茶道、俳句・短歌、新たな活動等	・従来よりも自由度の高い利用が可能な設え
第2和室	33 m ² (10畳)	俳句・短歌	現在の使用率の低さを踏まえて第1和室に統合		
展示兼トレーニング室	98 m ² (倉庫等：28 m ²)	ダンス	活動の部屋2	ダンス、太極拳、ヨガ、会議	・最大50人程度収容 ・防音又は吸音
			ギャラリー	展示	・写真・絵画や工芸品等の展示を想定

5-2-3 新たな機能等

新図書館の新たな機能として、カフェやショップ、コワーキングスペース等を設置します。また、ユニバーサルデザインの観点から、誰もが使いやすい施設となるよう共用部分を整備し、屋外にはイベントを開催したり子どもが遊んだりできる機能の付加も検討します。

表 5-3 新たな機能等に必要な諸室

諸室・スペース名	主な用途	仕様等
カフェ	カフェ利用、カフェ内での読書	—
ショップ	ギャラリーショップ	—
コワーキングスペース	仕事や勉強等	・PC 作業が可能な机や椅子の設置
トイレ（一般・児童）・授乳室等	子育て世代を含む、全ての人が使いやすいもの	・児童用、多目的トイレの設置
エントランス・エレベータ・階段等	明るく入りやすいエントランス	・ユニバーサルデザインへの対応 ・効率的な動線
屋外広場、公園	イベントの開催、子どもが屋外で遊ぶ場所	・キッチンカー等大型車両も停車できるスペース ・遊具の設置

5-3 蔵書規模目標

基本構想では蔵書の収容冊数 33.3 万冊程度、うち児童書 25%、閉架割合 50%を目安としました。

本計画においては、この目標を踏襲しながらも、伊東市情報センター機能として、伊東市の知や歴史の集積と活用を目指すことから、今後、歴史的公文書についても閉架書庫に保管していくことも想定し、基本構想で想定していた数値を見直し、閉架割合について最大 60%程度までの余裕を持たせることとします。

新図書館の蔵書目標

収容冊数	33.3 万冊（うち児童書 83,250 冊）
開架：閉架割合	40%：60%（閉架に歴史的公文書含む）

5-4 ICT計画

5-4-1 ICTタグシステム

(1) ICTタグシステム導入による効果

ICTタグシステムとは、ICTチップの埋め込まれたタグ（ICTタグ）を図書館資料に貼付し、その情報をリーダライタによって読み書きすることで管理運営を行うシステムです。ICTタグシステムは従来のようにバーコードを読み取る必要がなく、非接触で同時に複数処理できる等の特徴を持ちます。

特に、新図書館のように複数機能を有し、回遊性に富む施設の場合、ICTタグシステムによって施設内全体で貸出し処理なしで自由に資料を持ち運ぶことが可能となり、施設内の融合性や回遊性を高めることができます。

さらに、貸出・返却処理や予約本受取といった手続のセルフ化が実現され、利便性の向上と利用者のプライバシー保護に加え、管理運営業務の大幅な効率化による専門的サービスへの人員の投入が期待されるほか、資料の紛失、盗難などの防止に大きな効果があります。

(2) ICタグシステム関連機器

ICタグシステム導入のためには、図書に貼付するICタグ以外に自動貸出機、自動返却機、予約受取棚、持出し防止のためのBDSゲートなどの関連機器が必要となります。

表 5-4 ICタグシステム関連機器一覧（想定）

項目	内容
自動貸出機	利用者自身による貸出し処理を可能とする機器
自動返却機	利用者が資料を投入すると、自動的に返却処理が行われる機器
予約受取棚	予約本を集約して配架し、利用者自身が自分の予約本を簡単に探し出して貸出しできるように予約照会機等も併せて設置
BDSゲート	貸出し未処理の資料の持出しを防止するゲート
蔵書点検用ハンディ	資料を配架した状態のままでICタグを素早く読み取り、短時間での蔵書点検を可能とするハンディ端末
その他	カウンターや事務室等でのICタグの処理を可能とする端末

※現図書館の蔵書及び今後購入する図書へのICタグ貼付が別途必要

(3) 機器配置計画

利用者の利便性と管理の効率化のため、ICタグシステムを市民が最大限活用できるよう、関連機器は使いやすい位置への設置が重要となります。ICタグシステム関連機器と、利用動線・管理動線の関係性に鑑み、以下の方針で配置します。

ICタグシステムに関する機器の配置方針

自動貸出機：利用者が本を借りるために、本を手にとった書架から出口までの間の視認性の高い位置に設置し、かつ有人カウンターはその動線以外に設置する。

自動返却機：利用者はこれまで借りていた資料の返却処理をしてから、貸出・予約本受取を行うことが多いため、エントランスから近い視認性の高い位置とする。
返却本は適宜、管理者が回収の上、バックヤードで処理を行う必要があるため、バックヤードへの動線も配慮する。

※有人カウンターは貸出・返却処理などの業務は行わず、レファレンスや利用者登録などに特化し、機器との役割分担を明確化の上、そのことが分かるようサインなどにも留意する。

予約受取棚：予約本は人気の高い資料が多いため、持出しなどがされないよう、ゲートでの入退室管理ができる部屋に配置することが望ましい。

管理者が予約本を予約受取棚に並べる作業があるため、バックヤードとの動線に配慮する。

予約受取棚設置による利便性の向上により、予約本受取だけを行う利用者も多数想定されるため、視認性が高く、エントランスなどに近い位置への設置が望ましい。

BDSゲート：施設内回遊性を図るため、施設のメインエントランスにのみ設置することが望ましい。

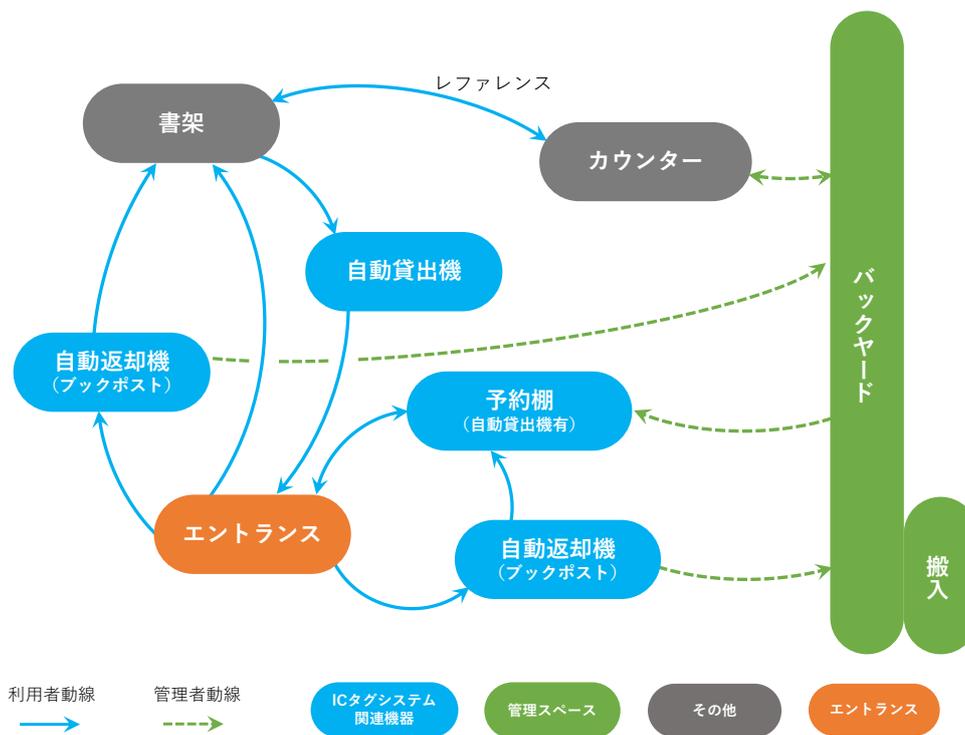


図 5-1 IC タグシステム導入に伴う利用者・管理者の動線イメージ

5-4-2 その他のICT機器

「4 サービス計画」や「5-2 諸室の考え方」で整理したサービス内容や諸室構成を踏まえ、ICT タグシステム関連機器以外に必要な ICT 機器として、座席管理システムやWi-Fi等の快適な施設利用を実現するための機器類、タブレット端末やデジタルサイネージ等の情報収集・発信に役立つ機器類、ファブスペースで活用するデジタル工作機器等が考えられます。

表 5-5 その他のICT機器一覧（想定）

項目	内容
座席管理システム	利用者自身がWebから簡単に座席を予約できるシステム
デジタルサイネージ	館内情報やイベントの開催情報、観光情報等を発信する機器
オンラインデータベース	新聞記事検索、雑誌記事見出し検索、クラシック音楽等の視聴が可能なオンラインデータベース等
PC・デジタル工作機器等	デジタルコンテンツの制作に利用可能なPCやアプリケーション、デジタル工作機器等（ファブスペースへの設置を想定）
タブレット端末	Webサイトやオンラインデータベースを通じた情報収集・音楽視聴等が可能なタブレット端末（館内貸出を想定）
Wi-Fi	利用者自身の端末での情報収集等を可能とする通信環境
読書記録通帳機	読んだ本のタイトル等を銀行通帳のように印字し、読書記録として蓄積可能な機器
デジタルアーカイブ事業	郷土資料の高精細な画像等のデジタル資料の制作及びオンラインでの公開
その他関連事業	ICT機器類を活用したクリエイティブなイベント等の開催

5-5 施設規模目標

「4 サービス計画」「5-2 諸室の考え方」「5-3 蔵書規模目標」を踏まえ、全体の延床面積 5,000㎡の内訳について、以下の面積を目標にゾーニング及び基本設計に反映していきます。

表 5-6 新図書館の施設規模

諸室名		面積	収容冊数*	備考	
従来の図書館機能	一般図書エリア	一般開架・閲覧スペース	600㎡	66,000冊	80席
		ティーンズ開架・閲覧スペース	130㎡	10,000冊	30席
		地域・参考資料開架・閲覧スペース	230㎡	10,000冊	40席
		学習室	160㎡	—	80席
		グループ学習室	80㎡	—	6席×4部屋程度
		新聞・雑誌コーナー	20㎡	—	—
		ブラウジングスペース	70㎡	—	ラウンジ等含む
		視聴覚資料コーナー	40㎡	(3,500点)	10席
		対面朗読室	20㎡	—	—
		予約本コーナー	20㎡	—	BDSゲートや自動貸出機の設置
	トイレ・廊下・階段等	380㎡	—	—	
	一般図書エリア計		1,750㎡	86,000冊	
児童図書エリア	児童開架・閲覧スペース	500㎡	47,000冊	50席	
	視聴覚資料コーナー	30㎡	(1,500点)	10席	
	おはなし室	50㎡	—	20人程度	
	キッズスペース	50㎡	—	15人程度※託児スペースと併用検討	
	トイレ・廊下・階段等	320㎡	—	児童用トイレ・授乳室の設置	
児童図書エリア計		950㎡	47,000冊		
スペース等	事務室	150㎡	—	30人程度	
	会議室・休憩室・ロッカー	100㎡	—	—	
	閉架書庫・作業スペース	350㎡	200,000冊	—	
	設備スペース	250㎡	—	—	
	トイレ・廊下・階段等	50㎡	—	—	
バックスペース等計		900㎡	200,000冊		
従来の図書館機能計		3,600㎡	333,000冊		
生涯学習機能	小ホール	230㎡	—	140席、防音	
	会議室1	60㎡	—	30人程度の会議を想定	
	会議室2	25㎡	—	10人程度の会議を想定	
	会議室3	25㎡	—	※会議室2と同様、連結使用想定	
	活動の部屋1	140㎡	—	最大100人程度収容、防音又は吸音	
	活動の部屋2	100㎡	—	最大50人程度収容、防音又は吸音	
	和室	40㎡	—	8畳程度+水屋等想定	
	ファブスペース	100㎡	—	50席、PC、電子工作機器等を設定	
	ギャラリー	50㎡	—	写真・絵画や工芸品を展示	
	トイレ・廊下・階段等	230㎡	—	—	
生涯学習機能計		1,000㎡			
機 新 能 た 等	カフェ・ショップ	200㎡	—	厨房・バックスペースを含む	
	コワーキングスペース	50㎡	—	PC作業が可能な机や椅子の設置	
	トイレ・廊下・階段・エントランス等	150㎡	—	—	
新たな機能等計		400㎡			
合計		5,000㎡	333,000冊		

※視聴覚資料点数は収容冊数の合計に含めない

5-6 ゾーニング及び配架方針

5-6-1 ゾーニング

これまでの検討を踏まえ、各フロアのゾーニングを設定します。

新図書館では施設全体の回遊性や新たな出会いを創出するため、従来の図書館機能や生涯学習機能の諸室を各フロアに分散配置します。「5-1 フロアコンセプト」で設定した各フロアのコンセプトに従い、諸室間の関係性や外部との連続性、利用者の動線も踏まえて配置することで、わかりやすさや使いやすさに配慮します。

様々な活動の連鎖や機能融合を促進するため、諸室はオープンスペースを基本としますが、学習室・ワーキングスペースや小ホール等は閉じられた空間とすることで、周囲の音の影響を抑制し、活動に集中できる環境を整えます。

また、効率的な管理運営に向け、利用者動線とは別に管理者動線を確保し、各フロアのバックスペースをまとめて配置します。

凡例		従来の図書館機能		利用者が入れるスペース	管理・事務スペース	諸室の関係	管理動線
生涯学習機能	[close]	[open]	[close]	[open]			

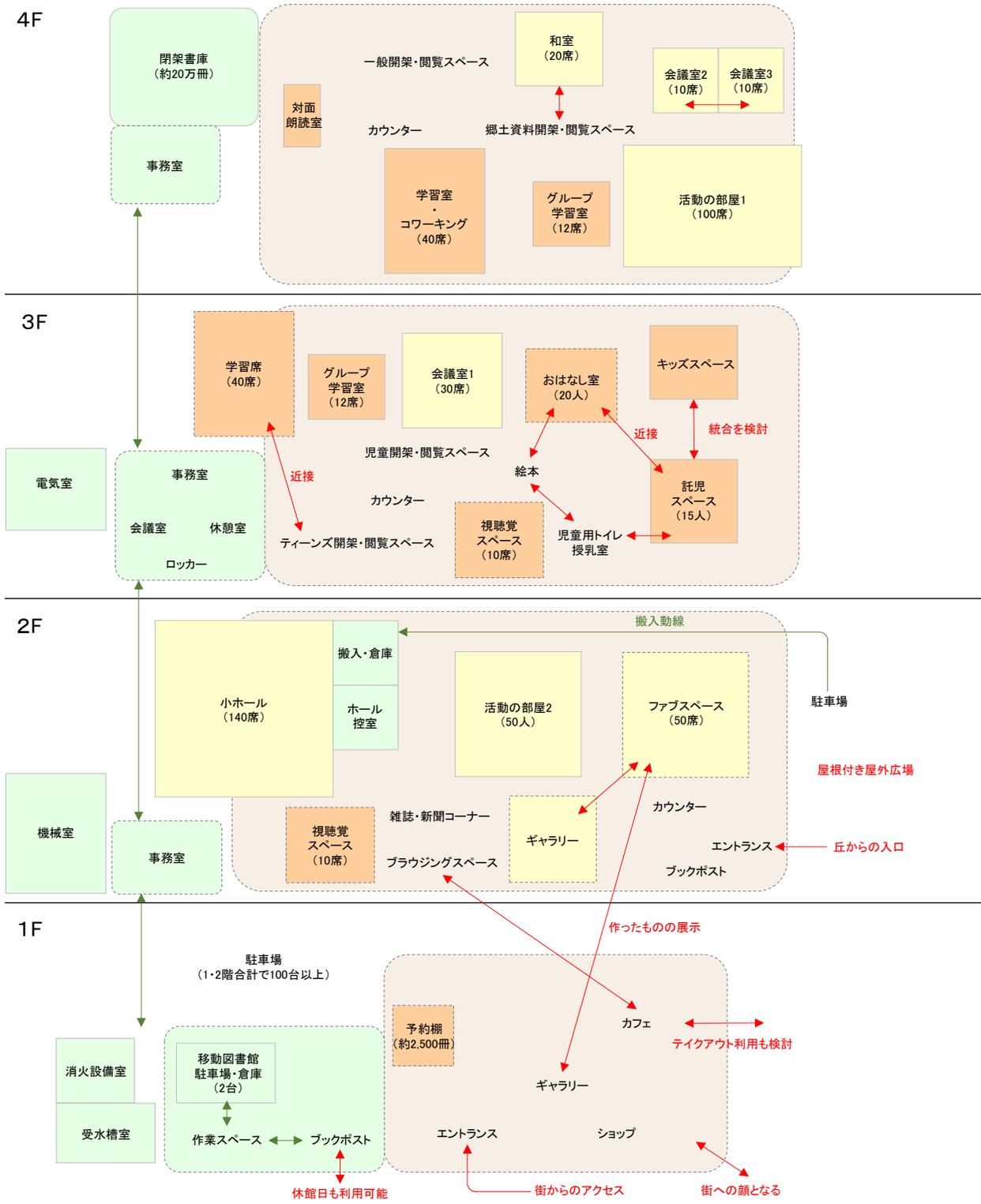


図 5-2 ゾーニングイメージ

5-6-2 配架方針

新図書館では、目的を持って訪れた人が必要な資料にたどり着けること、目的を持たずに訪れた人が思わず本を手取るような工夫を行うこと、また、様々な理由でこの施設を訪れる人々が伊東の魅力に自然と触れることができることを重視して配架を計画します。この考え方を基本としながら、「まちのミュージアム資料」については、縦方向に各フロア及び施設全体をつなぐ幹として、横方向に全資料とつながる枝として位置付けます。郷土資料や観光資料、また伊東市につながる資料、そこから連想される資料・情報である「まちのミュージアム資料」は、図 5-4 に記載のNDCを基にした「まちのミュージアム分類」に分け、NDC分類資料との関連をつくります。そして、書架を見ていくうちに利用者の興味の広がりや気づきが生まれるよう、NDC分類資料と「まちのミュージアム資料」がつながる配架を行います（図 5-3）。

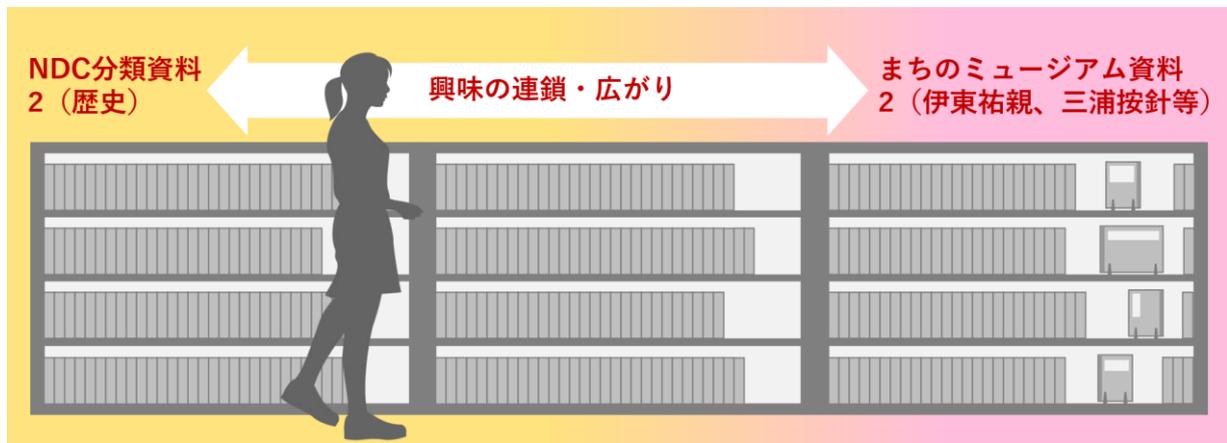


図 5-3 資料の配架イメージ

また、各フロアでの配架は「5-1 フロアコンセプト」及び前述のゾーニングを踏まえて計画していきます。

2階は、小ホール、活動の部屋、ファブスペース等で実施される芸術活動・スポーツに関連する分類等を部分的に配架します。また、多世代が使いやすいフロアになるよう、可動書架などを活用し、企画展示やイベント関連資料、ティーンズ資料等も配架します。

3階は、児童書を中心とした配架を行い、グループ学習室付近にティーンズ資料、おはなし室付近には親子に向けて子育て支援資料や生活に関わる資料を部分的に配架します。

4階は、一般書を中心とし、参考資料、郷土資料、貴重資料などを配架し、学習室、コワーキングスペース付近にはビジネス資料やデータベースなど関連した資料等を配架します。また、NDC分類資料と「まちのミュージアム資料」をつなぎ、それぞれの興味に応じて相互に行き来がしやすい配架とします。

なお1階のカフェ内にも、様々な分類から集めた手取りやすい資料を配架します。

NDC分類

まちのミュージアム分類（案）

郷土資料・閉架資料			
0	総記	0	自治体史、木下杢太郎、温泉、行政資料など従来の郷土資料
1	哲学	1	伊豆を含む観光資料から旅に役立つアウトドア関連資料まで (※市内神社など信仰にもつながる観点から)
2	歴史	2	伊東祐親、三浦按針など伊東にまつわる歴史人物が活躍した時代に関連する資料
3	社会科学	3	市民活動の記録や館内の創作スペースで作成した成果物など
4	自然科学	4	ジオパーク関連資料のほか、海、山などに関連する資料など
5	技術	5	伊東市の生活ガイド、伊東にゆかりのある建築資料、健康関連資料、グルメ関連資料など
6	産業	6	伊東の産業や特産物に関連する資料など
7	芸術	7	伊東にゆかりのある芸術家などの関連資料のほか、関連するアート資料、スポーツ関連資料など
8	言語	8	メドウェイ市、リエティ市、イスマイリ州といった友好都市、友好交流都市の関連資料のほか、その国の言語、文化を知ることができる資料など
9	文学	9	伊豆全体に関連する作家や文学系資料
児童	児童書全般	児童	伊東図書館作成の昔話絵本や伊東にゆかりのある作家の絵本など
ティーンズ	ティーンズ資料	ティーンズ	『あまんちゅ!』など伊東を舞台にした漫画及び関連するカルチャー系資料など

図 5-4 NDC分類と「まちのミュージアム分類」の関連（イメージ）

5-6-3 全体イメージ

これまで検討してきた内容を総合した全体的なイメージは以下のとおりです。

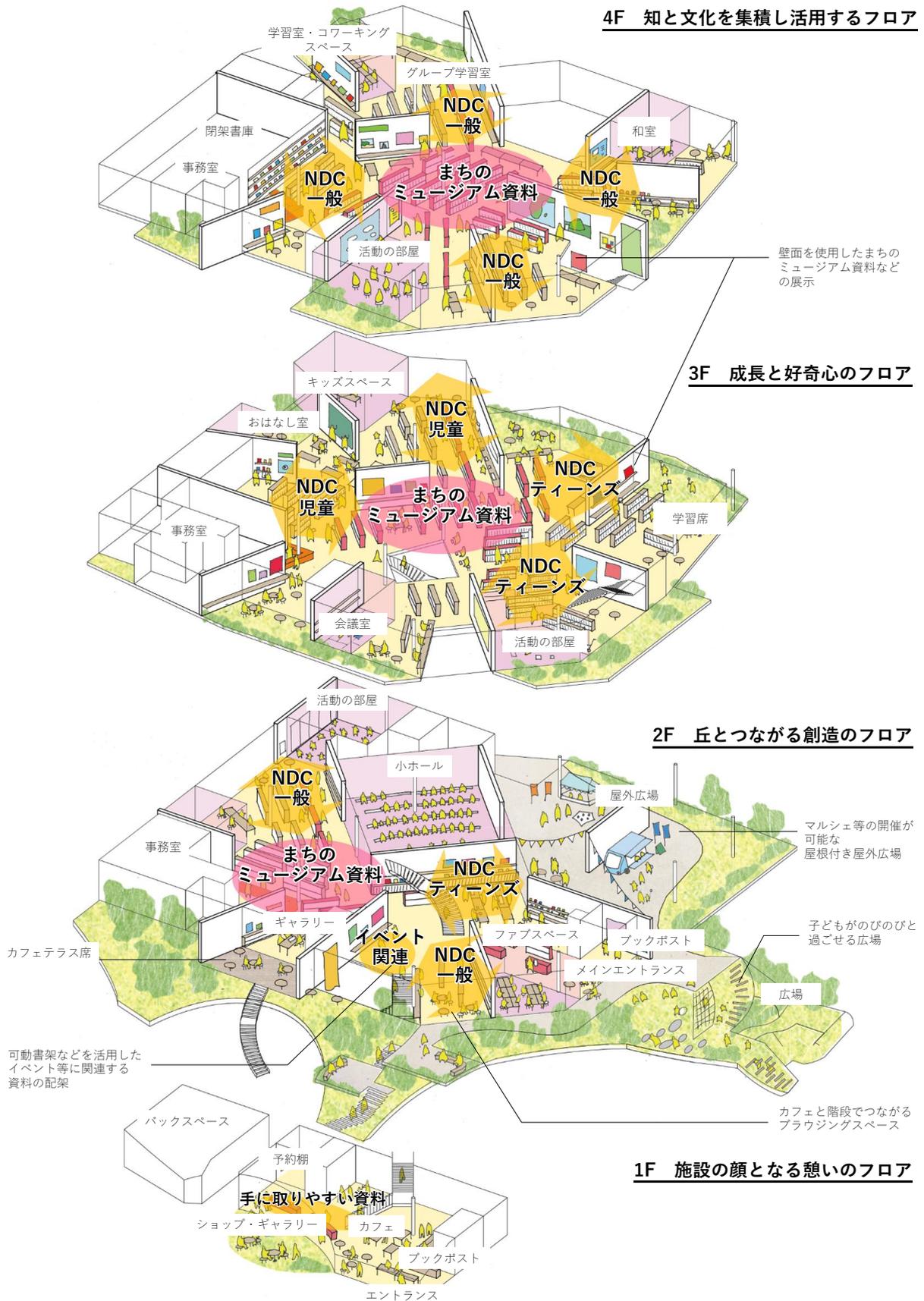


図 5-5 施設の全体イメージ

6 管理運営計画

6-1 開館時間・休館日

現施設の開館時間を踏まえ、新図書館では施設全体の開館時間を9～21時と想定します。また、レファレンス等の専門的な図書館サービスは19時までとし、19時以降はICタグシステムを活用した資料のセルフ貸出・返却や諸室の利用のみとすることで、夜間も図書館の基礎サービスを効率的に提供することが可能となり、今まで図書館を使いたくても使えなかった層の利用を促すことができます。

さらに、多様なライフスタイルの方々の利用を促すために、現施設では休館日としている月曜・祝日の開館を検討します。

表 6-1 開館時間・休館日

項目	現施設	新図書館（想定）
開館時間	図書館 9:30～18:00 生涯学習センター 9:00～22:00	9:00～21:00*
休館日	月曜、祝日、年末年始 館内整理日、蔵書点検期間	年末年始、館内整理日、蔵書点検期間

※専門的な図書館サービスは19:00までとし、19:00～21:00は自動貸出機・返却機・予約受取棚等によるセルフ貸出・返却や諸室の利用のみを想定

6-2 管理運営体制

新図書館では既存の図書館サービスに加え、生涯学習に関するサービスや新たなサービスを提供します。また、5,000㎡と現図書館の面積の約5倍の広さとなるため、それらを踏まえた管理運営体制を構築する必要があり、効率的な運営を実現するための検討が必要です。

本計画では4フロアとしたことにより、最大5フロアを想定していた基本構想策定時よりも管理運営体制の効率化を図ることが可能となり、それに加え、ICタグシステムの適切な活用による最大限の効率化を図ります。

表 6-2 管理運営体制別の人件費の比較（想定）

運営方式	項目	現図書館※1	新図書館 基本構想時 5フロア想定	新図書館 本計画 4フロア想定	新図書館IC導入 本計画 4フロア想定
直営	人員体制（人）	9.8	63.4	56.3	45.8
	人件費（千円）	43,555	210,000	203,000	192,400
民間活力の 活用による運営	人員体制（人）		52.5	46.2	35.7
	人件費（千円： 10%税込※2）		196,000	174,000	139,000

※1 平成31年度伊東市図書館費より

※2 指定管理料・委託料支払いには消費税がかかるため

7 事業計画

7-1 開館までの事業スケジュール

基本設計を令和4年3月、実施設計を令和4年11月までに完了し、令和5年度からは建築工事と並行して、具体的な開館準備を開始します。図書館システムのリプレースの時期や、移転作業の時期を見据え、遅くとも令和6年9月には現図書館を閉館し、令和7年1月の開館を目指します。それに当たり、開館までに必要な準備を以下のように計画します。

表 7-1 事業スケジュール一覧（案）

項目	R3年度		R4年度			R5年度				R6年度					
	12	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	
基本設計	■	■													
実施設計			■	■	■										
工事							■	■	■	■	■	■	■		
開館準備							■	■	■	■	■	■	■	■	
現図書館閉館											■	■	■	■	
代替サービス開始														■	
移転作業														■	
新図書館開館														■	
詳細スケジュール	サービス	検証等を通じた実際に行うサービスの検討	■	■											
		サービス詳細精査とかかる費用の精査			■	■	■	■	■	■					
		サービス詳細検討に伴う諸室構成の調整			■	■	■								
	蔵書計画	蔵書構成、配架骨子、収集・選書方針の検討を踏まえた配架計画骨子の作成	■	■	■	■	■								
		蔵書冊数の調整			■	■	■								
		配架計画詳細の作成										■	■	■	■
		資料購入・除籍の方針決定とシミュレーション	■	■	■	■	■								
		新刊図書購入計画の精査			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		新館用図書購入										■	■	■	■
	ICT計画	ICT計画詳細の作成		■	■	■									
		ICタグ貼付計画の精査					■	■	■	■					
		旧図書館図書へのICタグ貼付									■	■	■	■	■
		システム再リース				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		システムリプレース													■
	管理体制運営	具体的な管理運営体制を検討し、内容・費用面から直営/民間活力の活用によるメリット・デメリットを検証	■	■											
		新運営体制による立ち上げ										■	■	■	■
		家具、什器、ICT化に係る設備等の配置の検討	■	■	■	■	■								
	準備	移転作業のコスト算出とスケジューリング	■	■	■	■									
		移転期間中の代替サービスの検討と実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	詳細費用	運営費用概算の精査			■	■	■								
ICタグ貼付費用の精査				■	■	■									
新刊用図書購入費用の精査				■	■	■									
ICT費用の精査							■	■	■	■					
移転費用の精査							■	■	■	■					
代替サービスにかかる費用の精査							■	■	■	■					

■ 詳細検討 ■ 設計 ■ 開館準備 ■ 図書館システム関連 ■ 工事

7-1-1 サービス内容の詳細検討

本計画で策定したサービス内容及びそれにかかる費用について、更に検証を進めます。これは計画策定後から具体的な開館準備の始まる令和5年度まで継続して行います。

また、導入するカフェの運営内容等については、実施設計期間中に詳細な検討を進め、設計に反映していきます。

7-1-2 蔵書計画の詳細検討

本計画で策定した配架については令和4年度中に詳細を検討し、新館用の図書購入を開始する令和5年度までに確定していきます。

7-1-3 ICT計画

ICTタグシステムを含むICT計画については、機器など設計に反映させるために令和4年度の実設計期間に詳細を確定します。

現行図書館システムの更新時期を令和4年9月に控えています。ICTタグシステムを運用した令和7年1月の新館開館時期とずれてしまうため、現行図書館システムリースの2年延長を見据え、令和6年9月の現行図書館閉館に向け、システムの入替えとICTタグシステム導入を実施することを検討します。

また、現行図書館資料へのICTタグの貼付は令和5年度後半から開始し、開館しながら貼付作業を実施する予定ですが、令和5年度に新館用の図書購入を実施する前までに図書に貼付するICTタグの仕様を確定しておくことで、新規購入図書についてはICTタグを貼った状態で収集し、タグ貼付作業の効率化を図ります。

7-1-4 管理運営体制の詳細検討

これまで計画してきたサービス内容を実現するための管理運営体制の詳細を令和3年度中に確定していきます。併せて直営／民間活力の活用による運営などについてもメリット・デメリットを検証し、市民にとって最も良い在り方を検討します。また運営体制を反映させた設計とするため、令和4年度の実設計期間中にも詳細な内容検討を図り、設計との整合性を実現します。

7-1-5 開館準備の詳細検討

現図書館の閉館から令和7年1月の開館に向け、図書の梱包から搬出・搬入・配架までのスケジュールを令和4年度中に確定します。またその間の代替サービスについては現図書館を一部閉鎖して窓口のみの対応とする、新たにテナントなどを借りる等の検討をします。

7-1-6 詳細費用の精査

これら開館までにかかる全ての業務に対しての費用の精査を業務実施の前年までに行い、開館までに毎年必要な費用の予算化を図ります。

7-2 事業費概算

本計画で策定した内容についての今後の事業費概算費用は以下となります。

建設工事費を始めとする施設整備の総事業費は 3,182,000 千円で、開館後、毎年必要な運営費用については、直営の場合は 283,000 千円、民間活力を活用する場合は 229,000 千円と試算しています。

なお、今後、詳細な事業内容を決定していく中で、補助金等の活用を見据えつつ、事業費の縮減を目指してまいります。また、開館準備費用については今後、内容を精査の上、費用を算出していきます。

表 7-2 概算事業費（想定）

1 諸条件	内容	備考
①収容冊数	33.3万冊	
②延床面積	5,000㎡	
③開架率	40%	

2 総事業費	金額（千円）	備考
①建設工事費（建物・外構・駐車場合む）	2,510,000	基本構想時の試算結果を基に、液状化対策費用を加算
②家具（備品含む）	312,000	基本構想時の試算結果を基に、カーテン・消火器等の費用を加算
③書籍購入費	286,000	14.3万冊を新たに購入の場合
④ICT関連経費	74,000	ICタグシステム・電子図書館・その他ICT機器類の初期費用
総事業費合計	3,182,000	

3 運営費用（年間）	金額（千円）	備考
①－1 人件費（直営の場合）	193,000	ICタグシステムを導入し、効率的運営を図った場合
①－2 人件費（民間活力を活用する場合）	139,000	ICタグシステムを導入し、効率的運営を図った場合
②施設維持管理費	42,000	ビルメンテナンス費用・清掃費用等 ※光熱水費を除く
③ICT関連経費	48,000	ICタグシステム・電子図書館・その他ICT機器類のランニング費用
運営費用合計①－1	283,000	
運営費用合計①－2	229,000	

伊東市新図書館基本計画

発行 令和 4 年 1 月

編集 伊東市教育委員会生涯学習課

〒414-8555 静岡県伊東市大原二丁目 1 番 1 号

T E L 0557-32-1961

F A X 0557-37-8117

メール gakusyuu@city.ito.shizuoka.jp

U R L <https://www.city.ito.shizuoka.jp/>

※ S S L 化をしています。